

三田市の不登校問題等について

1 現状

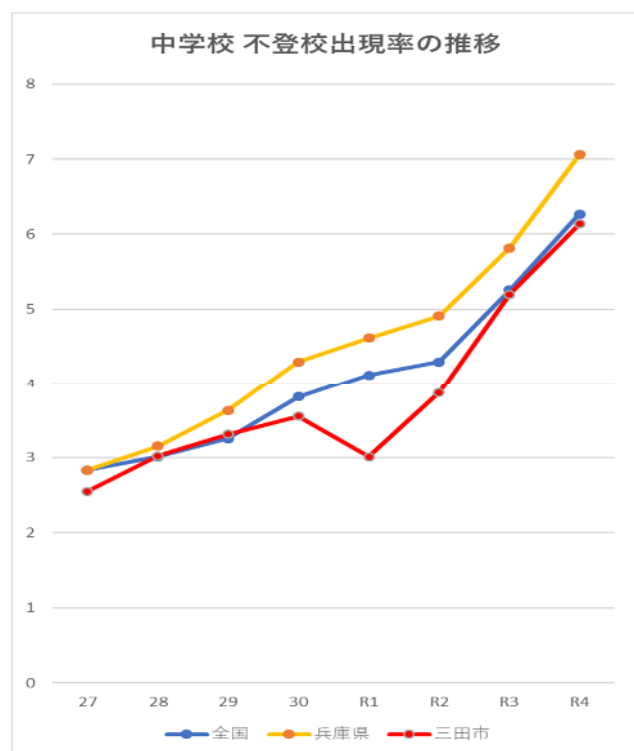
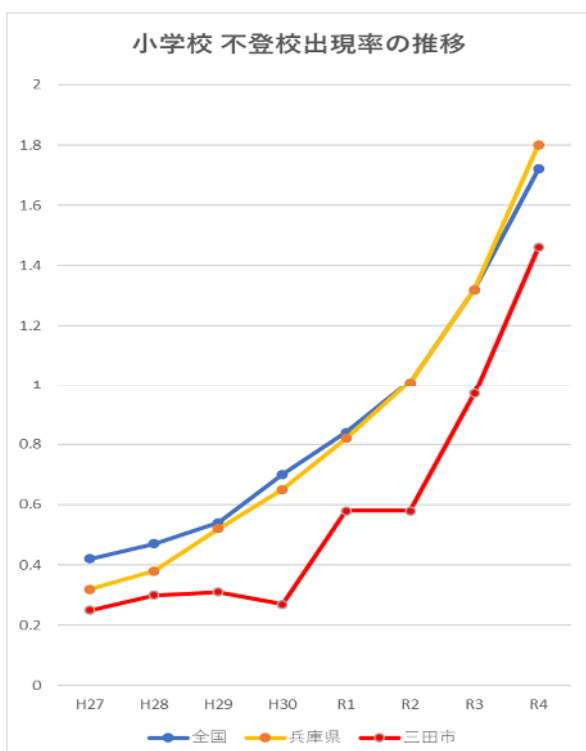
文部科学省の「令和4年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」によると、令和4年度の全国の公立小中学校の不登校児童生徒数は290,075人で過去最多となりました。兵庫県の不登校児童生徒数も15,577人で過去最多、**三田市も同様に小学校の不登校児童数は89人（前年度比1.48）、中学校の不登校生徒数は170人（前年度比1.17）で過去最多**となったことから、全国的に不登校児童生徒数は増加傾向にあり、喫緊の課題となっています。

【公立小学校】

	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	出現率	人数	出現率	人数	出現率	人数
全国	1.01%	62,862人	1.32%	80,825人	1.72%	104,265人
兵庫県	1.01%	2,829人	1.32%	3,643人	1.80%	4,938人
三田市	0.58%	36人	0.97%	60人	1.46%	89人

【公立中学校】

	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	出現率	人数	出現率	人数	出現率	人数
全国	4.30%	127,671人	5.26%	157,019人	6.27%	185,810人
兵庫県	4.91%	6,424人	5.82%	7,679人	7.06%	9,239人
三田市	3.87%	105人	5.20%	145人	6.14%	170人



2 要因

三田市の不登校の主な要因は「無気力、不安」が小学校 40.4%、中学校 54.1%で、国・県同様、最も多くなっています。その他、小学校では「生活リズムの乱れ、あそび、非行」が 12.4%、親子のかかわり方 11.2%が多く、国・県も同様です。中学校では「いじめを除く友人関係をめぐる問題」が 13.5%と多く、国・県も同様ですが、学業不振が 7.1%と国、県に比べて多くなっています。

主な要因		国		兵庫県		三田市	
		小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
学校に係る状況	いじめを除く 友人関係をめぐる問題	6.5%	10.6%	6%	11%	4.5%	13.5%
	学業の不振	3.2%	5.6%	2.8%	6.6%	0%	7.1%
家庭に係る状況	親子の関わり方	12.1%	4.8%	11.5%	5.3%	11.2%	5.3%
	生活リズムの乱れ ・あそび・非行	12.6%	10.9%	12.8%	9.5%	12.4%	4.12%
本人に係る状況	無気力・不安	51%	52.7%	55.1%	52.8%	40.4%	54.1%

3 課題

不登校児童生徒の要因は多様で、複雑化しています。個々の状況把握（アセスメント）と、その結果に基づく組織的な支援体制の構築が必要となっています。主な要因の内、「無気力・不安」はさらに丁寧なアセスメントを行い、その背景をしっかりと把握する必要があります。また、不登校児童生徒の支援の状況については、不登校児童生徒のうち、関係機関の支援を受けている児童生徒は小学校で 68.5%、中学校で 63.5%になっている一方、担任の支援以外で、学校の内外において専門的な支援を受けていない児童生徒は、小学校で 31.5%、中学校 36.5%となっています。

<市内公立小学校>	R2	R3	R4	不支援率
	人数	人数	人数	
不登校児童数(a)	36	60	89	
支援を受けた実人数(b)	36	36	61	
支援を受けていない実人数	0	24	28	31.5%
支援率(b/a)	100%	60%	68.5%	

<市内公立中学校>	R2	R3	R4	不支援率
	人数	人数	人数	
不登校児童数(a)	105	145	170	
支援を受けた実人数(b)	70	115	108	
支援を受けていない実人数	35	30	62	36.5%
支援率(b/a)	66.7%	79.3%	63.5%	

不登校児童生徒が学校の内外で適切な支援を受けることができるように、多様な「学びの場の確保」や、学びたいと思ったときに学べる環境を整備する必要があります。

4 国・県の動向

- (1) 令和5年3月31日 文部科学省「誰一人取り残されない学びの保障にむけた不登校対策について (COCOLO プラン)」【資料2】

※文部科学省通知より抜粋

(前略) 令和3年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」では、小学校及び中学校で約24.5万人、高等学校を合わせると約30万人に上り過去最高となるなど、生徒指導上の喫緊の課題となっております。また、同調査からは、90日以上の不登校であるにもかかわらず、学校内外の専門機関等で相談・指導等を受けていない小・中学生が約4.6万人に上ることも明らかとなっております。

こうした状況を受けて、文部科学省では、このたび(中略)「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」(COCOLO プラン)を取りまとめました。

文部科学省としては、本プランも踏まえ、今後順次、不登校対策の一層の充実に取り組むこととしておりますが、貴職におかれても、関係部局、地域社会、各家庭、NPOやフリースクール関係者等とも連携しながら、本プランも踏まえ、取組の一層の充実に努められるようお願いいたします。

また、本プランに係る取組のうち、とりわけ下記(【資料2】)の取組については、速やかに推進していくことが重要と考えておりますので、(中略)下記(【資料2】)の取組の速やかな推進に努めていただきますようお願いいたします。(後略)

- (2) 令和5年10月17日 文部科学省「不登校・いじめ 緊急対策パッケージ」【資料3】

※文部科学省通知より抜粋

(前略) 令和4年度の国立、公立、私立の小・中学校の不登校児童生徒数が約29万9千件(過去最多)、うち学校内外で相談を受けていない児童生徒数が約11万4千人(過去最多)、うち90日以上欠席している児童生徒数が約5万9千人(過去最多)、(中略)等の結果が明らかになりました。(中略)

新型コロナウイルス感染症の影響が続き、感染を予防しながらの生活の中、不安や悩みを相談できない子供たちがいる可能性や、子供たちの不安や悩みが従来とは異なる形で現れたり、一人で抱え込んだりする可能性等も考慮し、引き続き、周囲の大人が子供たちのSOSを受け止め、組織的対応を行い、外部の関係機関等とも積極的に連携して対処するなど、きめ細かな対応が求められています。

こうした状況を踏まえ、政府においては、児童生徒が安心して学ぶことができる、「誰一人取り残されない学びの保障」に向けた取組の緊急強化を図るため、(中略)「不登校・いじめ 緊急対策パッケージ」を下記(【資料3】)の通り取りまとめました。(後略)

5 三田市の今後の方針

資料4 「三田市不登校【緊急対策パッケージ(案)】について」

- (1) 不登校の児童生徒の全ての学びの場の確保
- (2) 心の小さなSOSの早期発見
- (3) 教員、児童生徒、保護者等に適切な情報提供